

# 神在祭が執り行われる神社

出雲市内では、出雲大社の他3社で神在祭が執り行われます。万九千神社では、参集された神々が最後にお立ち寄りになり、この地から帰路につかれると言われていました。

**6** **朝山神社** 出雲市朝山町1404  
TEL0853-48-0201(朝山コミュニティセンター)  
**神在祭** 11月15日(日)~11月24日(火)  
《旧暦10月1日~10日》



**7** **日御碕神社** 出雲市大社町日御碕455  
TEL0853-54-5261  
**神在祭** 11月25日(水)~12月1日(火)  
《旧暦10月11日~17日》



**8** **万九千神社** 出雲市斐川町併川258  
TEL0853-72-9412  
**神在祭** 12月1日(火)~12月10日(木)  
《旧暦10月17日~26日》



劇場オリジナルアニメ(2021年全国劇場公開予定)

## 神在月のこども

Child of Kamiari Month



神話の地、島根・出雲へ。  
駆ける少女のものがたり

【ストーリー】

主人公は、現代を生きる、12才の少女カンナ。母の他界で、好きだった走ることが嫌いになってしまったことも。その彼女が、在る月、絶望の淵に母の形見に触れたことで、歯車が廻りはじめる。神無月と書き、全国から神々が姿を消す月を神在月と呼び、神々を迎えてまつる神話の地。島根・出雲、この島国の根と読む場所へ、自分を信じて駆ける少女のものがたり。

アニメ制作「追体験ムービー」配信中  
<https://kamiari-kodomo.jp/>



表紙のデザインは、劇場オリジナルアニメ映画『神在月のこども』とタイアップが実現し、誕生したものです。

### ご当地情報

#### ぜんざいの発祥

神在祭のとき、出雲では「神在餅(じんざいもち)」を振舞っていました。「じんざい」が出雲弁で「ずんざい」、さらには「ぜんざい」と訛って、京都に伝わったと言われています。ぜんざい発祥の地が出雲であることは、江戸初期の文献「祇園物語」にも記されています。



#### お忌みさん

神在祭の期間、神々の会議を邪魔しないようにと、建築や土木工事、歌舞音曲はもとより、掃除や爪切りまでも遠慮し、忌み慎む風習がありました。そこで、神在祭は、別名「お忌みさん」と言われます。神門通りでも、神迎祭などの時間には、静かにお客様をもてなすお店があります。

大好き★出雲! 令和2年版

大好き★出雲!倶楽部(出雲ブランド化推進市民委員)事務局  
〒693-8530 島根県出雲市今市町70 出雲市縁結び定住課 TEL0853-21-6771

Kamiarizuki Izumo

# 神在月出雲

かみありづきいづも

「神無月」という旧暦10月、全国から八百万の神々が出雲にお集まりになり、様々なご縁について話し合いをされることから、出雲では「神在月」といいます。

## 出雲大社の神在祭

神在月の旧暦10月10日の夜、掃き清められた【1】**稲佐の浜**には、八百万の神々を迎える御神火が焚かれ、龍蛇神(海蛇)を神々の先導役として神迎えが行われます。神事が終わると、神籬(大楠に細長い幣をつけたもの)に宿られた八百万の神々を、出雲大社へのご案内します。約3キロ余りのこの道程【2】**神迎の道**を、神職や全国から集まったたくさんの人々がお供して、【3】**出雲大社**へと向かいます。

神々は、大社に滞在する7日間、出雲大社境内の東西にある【4】**十九社**で宿泊され、【5】**上宮(仮宮)**で神議(会議)されると言われています。

### 令和二年 神在月神事日程

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、祭事の内容変更や参列制限があります。詳しくは、出雲大社のウェブサイト等でご確認ください。

- 11月24日(火) 《旧暦10月10日の夜》※一般の方の見学・参列はできません。  
「神迎神事」【於: 1 稲佐の浜】  
「神迎祭」【於: 3 出雲大社・拝殿】
- 11月25日(水) 《旧暦10月11日》※参列は関係者のみ  
「神在祭」【於: 3 出雲大社・御本殿】
- 11月29日(日) 《旧暦10月15日》※縁結び大祭への参列は事前申込者のみ  
「神在祭・縁結大祭」【於: 3 出雲大社】
- 12月1日(火) 《旧暦10月17日》※縁結び大祭への参列は事前申込者のみ  
「神在祭・縁結大祭」【於: 3 出雲大社】  
「神等去出祭」【於: 3 出雲大社・拝殿】
- 12月10日(木) 《旧暦10月26日》  
「第二神等去出祭」【於: 3 出雲大社】

※神等去出祭とは、神々をお見送りする神事です。一度目は出雲大社から、二度目は出雲の国から神々が発発される際に執り行われます。



# ① 稲佐の浜

旧暦10月10日、全国からお越しになった八百万の神々を、出雲大社の西にある浜でお迎えます。「国譲り」や「国引き」の神話の舞台となった砂浜は、日本の渚・百選にも選ばれており、夕刻には、日本海に沈む夕日を見に多くの人々が訪れます。日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーの中でも中心となる場所です。

# ② 神迎の道

旧暦10月10日、稲佐の浜でお迎えた全国の神々は、「神迎の道」と呼ばれる神聖な路を、出雲大社へと向かわれます。

# ③ 出雲大社

ご祭神は、「因幡(いなば)の白兎」の主人公「だいこくさま」の愛称で知られる大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)。平成31年3月には、平成20年から始まった60年に一度の大事業「平成の大遷宮」が完遂しました。

# ④ 十九社 (出雲大社境内)

神在祭の期間、全国の神々は出雲大社本殿の東西にある「十九社」にご宿泊されます。神々が滞在される1週間は、このお社のすべての扉が開かれます。

# ⑤ 上宮 (仮宮)

素戔鳴尊(すさのおのみこと)と八百万神がご祭神である出雲大社の摂社。

神在祭の期間中、全国の神々は上宮で、様々なご縁について神議(かむはかり:会議)をされます。



# 神在月 由縁の地



① 稲佐の浜



③ 出雲大社 (本殿)



④ 十九社



⑤ 上宮 (仮宮)

# ⑥ 朝山神社

ご祭神は、真玉著玉之邑日女命(またまつくたまのむらひめのみこと)。清らかな森の空気と清流で心洗われる標高170mの山頂付近に鎮座しています。

全国の神々が出雲に参集された際に、まずこのお社に立ち寄ってから神議をし、出雲大社へ向かわれるという伝承があります。

# ⑦ 日御碕神社

天照大御神(あまてらすおおみかみ)をご祭神とする「日沉宮」(ひしずみのみや)と、素戔鳴尊(すさのおのみこと)をご祭神とする「神の宮」の上下両宮を中心とした社殿。うち14棟と鳥居、石灯籠は国の重要文化財に指定されています。

青い日本海と緑の松林を背景とした「朱の神殿」は、鮮やかさを際立たせ、さながら竜宮城のたたずまいを見せます。

# ⑧ 万九千神社

櫛御気奴命(くしみけぬのみこと)、大穴牟遲命(おおあなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこのみこと)の三柱と八百万神がご祭神。

神在月に参集された神々は、出雲路の最後にこの社へ立ち寄り、会議の締めくくりと直会(なおりい)と呼ぶ宴を催したのち、来年の再会を期して各地への帰路に就かれると言います。旧暦10月26日夕刻の神等去出祭には、神々と人々の前途を祓い清める当地独特の湯立神楽も舞い奏でられます。

# ⑨ からさで大橋 ⑩ 神立橋

参集された神々が全国へお帰りになることを、「神等去出(からさで)」と呼びます。また、神々が神議を締めくくり、直会をして旅立つとされる「万九千神社」の近くでは、「神立(かんだち)」が地名となり、橋名にもなっています。